

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。

※「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。

※「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

1 学力・進学保障－生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る

(1) 教志コース（教員養成系コース）を定着させる。

- ア 1年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を確立する。
- イ 2年生の設置科目「教志入門」の内容を充実するとともに、効果的な運営方法を確立する。
- ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。

※ 教志コースを含めて、志高く（高校での目標を持って）入学してきた生徒の割合を70%以上にする。

※ 平成29年度入学生のうち、コース選択生徒の卒業時の満足度を80%以上にする。

(2) 学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。

- ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定する。
 - イ 授業の相互見学制度、教科ごとの研究授業を実施し、教科教育力の向上を図る。
 - ウ 積極的に上位校を狙う生徒や遅進生徒に対する指導の現状を集約し、対象生徒の状況（課題）に応じた支援をコーディネートする。
 - エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、学力とりわけ思考力・表現力の伸長を図る。
 - オ 各種検定（漢検・数検・英検等）を推進し、基礎学力の伸長を図る。
 - カ 平成29年度学校経営推進費により設置予定の電子黒板機能付きプロジェクターの導入により、授業改革を行いさらなる学力の向上を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における学力向上・進路目標実現に向けての生徒の努力度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で70%以上とする。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を1年生120分以上、2年生140分以上、3年生240分以上とする。
（平成28年度はそれぞれ51.5分、57.6分、214.4分）
- ※ 進学実績について、生徒の第一希望を叶えることを目標として、大学進学希望者について、3年生1学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合90%以上にする（H28年度実績は、83.6% 大学進学希望者に対する関関同立、国公立大学等への合格率は19.0%、産近工龍（工は大工大）等の大学への合格率は35.6%）。

2 学校生活－規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる学校作り

(1) 規範意識の高揚を図る－遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー等。

(2) 安全・安心で意欲的な学校生活を推進する－あいさつ指導、環境(学習・生活)整備、高いレベルでの文武両道(学校行事・部活動の推進)、(障害者差別解消法に規定された)合理的配慮の合意形成

(3) 学校行事等の取り組みで生徒主体化を図る。

※ 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度を「よくあてはまる」、「あてはまる」で90%以上とする。

3 学校運営－プロとしての教員集団を組織化し、地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。

(1) 実務提要管理－電子データ化された実務提要(学校内規)の管理及び引き継ぎ体制の構築。

(2) ICTの積極的活用－校務運営システム(教育庁)と校内LANを最大限活用して生徒情報総合管理システムを構築し、校務運営の効率化を図る。

(3) 新任・若手教員に地元の小中学校などでの研修を通して、力量の向上を図る。

(4) 教志コースの充実、新教育課程に関する研修、教科教育力の向上などを視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。

(5) 高大連携の推進－教志コースの内容の充実をめざす。

(6) 地域連携の取組の定着・推進－地域行事や八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、一層地域からの信頼を高める。

※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。

※ 北高アカデメイアの参加者数を200人以上(昨年度は225人)、満足度を95%以上とする。

4 広報－常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

(1) 広報活動の強化－学校説明会・ホームページ・メールマガジン・北高NOW等を通して、本校の取組の周知を図る。

(2) アドミッションポリシーの周知

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学力・進学保障】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教志コースの充実などにより、志高く目標を持って入学してきた生徒の割合は 80.7%と昨年同様 8 割を上回ることができた。 ・キャリアガイダンス等の充実により主体性が身に付き学力向上・進路目標実現に向けて努力したとの回答は 77.5%と昨年の 74.1%を上回ることができた。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事や部活動に主体的に参加している生徒が多く、高校生活への満足度は 84.5%であり昨年度と同様に 80%超であった。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板使用に関する、教職員対象の研修会を 2 講座行い、延べ 70 名の教職員が参加し ICT 教育の推進を図った。 	<p>【第 1 回（7 月 8 日開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間層の生徒に対しての意識を教師が高めることで、学習意欲の向上や不登校生徒の減少を図ってもらいたい。 ・データを見る場合に肯定的指標だけを見るのではなく、否定的な回答している生徒に対しての指導や支援が必要である。 <p>【第 2 回（12 月 6 日開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの使用時間が 160 分(昨年は 123 分)と増加が気になる場所であるが、使用は悪と考えるのではなく、どうすれば学習面でも効果的に使えるかという指導が必要である。 ・自己肯定感、自己有用感を高める教育内容を考えてもらいたい。 ・ICT 教育は教員の省力化・効率化に加えて情報の共有化と蓄積を図るようにすべき。 <p>【第 3 回（2 月 15 日開催）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活における満足度との質問があるが漠然としすぎていないか。 ・アンケートを 4 択で記入させ、肯定的回答率としているが、ポイントは両端にある。 ・小・中・高が隣接している地域特性を生かし合同での避難訓練も考えてはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力・進学保障	<p>「教科教育力の向上強化年」</p> <p>(1) 教志コースの定着</p> <p>(2) 生徒の学力の向上と進路目標実現に向けての組織力の向上</p>	<p>(1) 生徒のモチベーション向上</p> <p>ア 教志コース委員会メンバーが中心となって、1 年生(41 期生)に対するコース選択に向けての取組の具体 (ガイダンス・イベント等) について計画し、実践する。</p> <p>イ 教志コース委員会メンバーがそれぞれ担当する専門科目の内容や具体的運営方法を構築し実践する。</p> <p>ウ 読書活動推進のため、図書館活性化を図る。</p> <p>(2) 教科教育力向上のためのシステム構築</p> <p>ア 教科ごとに教科・科目の目標・到達度を設定し、定期考査等の結果から取組の点検・評価を行う。</p> <p>イ 電子黒板機能付きプロジェクターを活用するなど、ICT を活用した授業を実施することにより、学力とりわけ思考力、表現力の向上につなげる。</p> <p>ウ 授業の相互見学制度・教科ごとの研究授業の導入等から、教科教育力の向上を図る。</p> <p>エ 進学校としての意識を醸成するとともに北高スタンダードを活用する。特に学力向上・進路目標実現に向けた取組 (下記①～⑦等) について、効果的な実践を図る (特に懇談の充実を図る)。</p> <p>① 定期考査・学力生活実態調査・模試</p> <p>② 各種検定 (漢検・数検・英検等) の推進</p> <p>③ A・B 講座・チャレンジ合宿等の補習・講習</p> <p>④ 懇談 (生徒・保護者・三者・クラス・学年)</p> <p>⑤ 科目・コース選択説明会・進路別説明会・大学見学</p> <p>⑥ 担任会・拡大学年会・教育相談委員会</p> <p>⑦ 追認関係・判定会議</p> <p>オ めざす学習環境のための教室環境と授業規律の確立</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 教志コース生としての取組の満足度 85% 以上。</p> <p>* 平成 29 年度入学生生のアンケート結果における、目標 (教志コースを含む) を持ち本校を受験した生徒の割合 85% 以上。</p> <p>ウ 図書館利用者数 (書籍貸出数) 前年度比 15% 増加</p> <p>(2)</p> <p>ア 設定したものをホームページに掲載することや、その点検・評価ができたか。</p> <p>イ ICT を活用した授業 (実施教員の割合) 80% 以上。</p> <p>ウ 教員の相互見学率 100%、教科ごと研究公開授業を 1 回以上、生徒の授業満足度 85% 以上。</p> <p>エ 活用度</p> <p>* 生徒向け学校教育自己診断における平日の家庭学習時間を 1 年生 60 分以上、2 年生 70 分以上、3 年生 240 分以上とする。</p> <p>* 進学実績について、平成 29 年度卒業生までに、4 年制大学進学希望者について、3 年生 1 学期段階での進路希望先を達成できた生徒の割合を 80% 以上にする。 (なお、めやすとして関関同立、国公立大学等への大学合格者を 25% 以上 (平成 28 年度は 19.0%) に、産近工龍等の大学合格者を 40% 以上 (平成 28 年度は 35.6%) とする。)</p> <p>* 各種検定への延べ参加人数 前年度比 50% 増加</p>	<p>(1)</p> <p>アイ プレゼンテーションの指導機会を増やすなど内容の充実を図った。満足度は 82.8% と概ね達成された。(○)</p> <p>ウ 図書館をよく利用した生徒は 25% であり昨年より微増であるが、図書だよりの充実により貸出冊数が 585 冊 (昨年は 330 冊) と大幅にアップした。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア ホームページに掲載した。(○)</p> <p>イ プロジェクター設置が 12 月となり十分な活用ができず 57.4% と目標を大きく下回った。(△)</p> <p>ウ 教員の相互見学は 83.7% (昨年は 79%) でやや上昇した。しかし授業満足度は 76.6% と目標に届かなかった。(△)</p> <p>エ 平日の家庭学習時間 30 分以内の割合が 3 年生で 13.9% (昨年は 4.3%) と増加した。各学年の平日の家庭学習時間は 1 年 55.8 分、2 年 51.2 分、3 年 181.7 分であり、いずれも目標に届かなかった(△)</p>
学校生活	<p>「時を守り、場を清め、礼を正す」</p> <p>(1) 規範意識の高揚</p> <p>(2) 安全・安心で意欲的な学校生活の推進</p>	<p>(1) 遅刻・制服・自転車・携帯・自主活動指導</p> <p>ア 日常の指導や身だしなみマナー向上週間、及び保護者へのメールマガジン等を活用すると共に、一か月で 3 回以上遅刻した生徒に対する早朝登校指導や、常習者に対する指導強化を行うなど、頭髪、装飾品も含めた規範意識の高揚を図る。</p> <p>イ 年度当初の取組や生徒指導キャンペーン及び外部機関を活用して、自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>ウ 携帯を研修や啓発活動により正しく利用させる。</p> <p>エ 部活・学校行事を生徒主体で取り組ませる。</p> <p>(2) 清掃・環境・挨拶</p> <p>ア 教室・廊下などの清掃活動の徹底。</p> <p>イ 安心・安全で充実した学習環境・生活環境を確保するため、安全点検を定期的に行うと共に施設・設備の改善を図る。</p> <p>ウ 施設・設備の改善 (トイレ等)</p> <p>エ 全教職員・生徒が、あたり前に挨拶ができるよう、あらゆる機会を活用して指導する。</p> <p>オ 職員の救急講習全員参加</p> <p>カ 献血活動 (文化祭時) の啓発</p> <p>キ 支援カードを有効に活用し、支援教育の充実及び不登校生徒の状況把握と適切な指導・支援につなげる。</p> <p>ク 合理的配慮の合意形成を円滑に進める</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻者数の 1 日平均を昨年度実績 (15 回) 以下にする。</p> <p>イ 自転車マナーが向上したと感じている生徒 80% 以上・保護者 80% 以上。</p> <p>ウ 携帯指導件数年間 20 件以内。</p> <p>エ 主体的に取り組めた生徒 80% 以上。</p> <p>* 生徒向け学校教育自己診断における高校生活における満足度 85% 以上 (平成 28 年度は 83.9%)。</p> <p>(2)</p> <p>アイ 生徒向け学校教育自己診断における学習環境・生活環境の満足度 80% 以上 (平成 28 年度は 77.5%)。</p> <p>ウ 施設・設備の改善認識 65% 以上。</p> <p>エ 保護者向け学校教育自己診断における挨拶をしている生徒 90% 以上 (平成 28 年度は 81.8%)。</p> <p>オ 職員の救急講習全員参加。(昨年度 57 名)</p> <p>カ 生徒の献血意義の認識 90% 以上。</p> <p>キ 支援カード有効活用の認識 70% 以上。</p> <p>ク 合意形成についての認識 80% 以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 遅刻生徒数は 1 日平均 11.4 回と昨年度を大幅に下回った。(◎)</p> <p>イ 自転車マナー向上への意識は生徒 85.2% 保護者 86.5% と向上した。毎日の登校指導の成果である (◎)</p> <p>ウ 携帯指導件数は 72 件と増加した。(△) 昨年は 49 件</p> <p>エ 部活動や学校行事に主体的に取り組めた生徒は 83.3% でほぼ達成された (○)</p> <p>(2)</p> <p>アイ 学習環境の満足度は 76.6% (○)</p> <p>ウ 施設設備の改善認識は 63.2% (○)</p> <p>エ 保護者の意識は 87.2% で概ね達成 (○)</p> <p>オ 職員の救急講習参加 64 名 (○)</p> <p>カ 生徒の献血意義の意識 87.3% (○)</p> <p>キ 支援カード有効活用の意識 38.2% (△)</p> <p>ク 合意形成への意識 76.4% (○)</p>

府立高槻北高等学校

<p>学校運営</p>	<p>(1)学校力の向上 (2)教師力の向上 (3)地域連携</p>	<p>(1-a) 実務提要の活用 ア 実務提要の効果的な利用 イ 適切な改善・引き継ぎ方法の策定 (1-b) ICT活用 ア 校務処理システムを活用し、校務運営の効率化を図る。 (2-a) 新任・若手教員の力量向上 ア 校内研修を充実し、初任教員がプレゼンする機会を増やす。 (2-b) 教科会議の充実 ア 授業のユニバーサルデザイン化を検討する。 (3) 取組の定着・推進 ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、より一層地域からの信頼を高める。</p>	<p>(1-a) ア 教職員の利用割合 90% 以上。 イ 教員の改善認識 80%以上。 (1-b) ア 積極的に活用する教職員 80% 以上。 (2-a) ア 新任・若手教員の満足度 80%以上。 (2-b) ア 教職員の改善認識 80%以上。 (3) ア アカデメイア参加者数 200 人以上、満足度 95%以上。</p>	<p>(1-a) ア 教職員への利用割合 76.3%(△) イ 引き継ぎ意識の改善 89.1%(◎) (1-b) ア 積極的活用 90.9%(◎) (2-a) ア 新任等の満足度 52.6%(△) (2-b) ア 教職員の改善意識(◎)89.1% (3) ア アカデメイア参加者数は 173 名と目標値に届かなかったが降雨によりグラウンド種目中止のためは満足度は 98% (◎)</p>
<p>広報</p>	<p>(1)広報活動の強化</p>	<p>(1) 情報発信 ア 次の取組を通し、本校の教育内容の周知を図る。学校説明会 ホームページ メールマガジン 北高NOW イ アドミッションポリシーの周知</p>	<p>(1) ア 学校説明会－8回以上実施・(学外での)教員参加率 40%以上、アンケートによる参加者満足度 90%以上。ホームページ 50 更新及び全部活・全行事更新、6 万アクセス。 メールマガジン 40 以上配信。北高NOW年 8 回発行。 イ アンケートによる理解度 90%以上。</p>	<p>(1) ア 学校説明会－10 回実施、教員参加率 48%、アンケートによる参加者満足度 98%、ホームページ更新回数 73 回、アクセス数 45500 回、メールマガジン 40 回、北高NOW 4 回(◎) イ 第 1 回生徒アンケート 67.9% (△)</p>